

大阪府立農芸高等学校 平成 30 年度 第 1 回 学校協議会

平成 30 年 7 月 18 日

10:30～ 校長室

司会・記録：浦・鳥谷

○平成 30 年度委員

新井 亜紀、角野 勝久、澤田 佳知、藤岡 理、大堀 彰子、泉谷 章仁

○出席者

協議会委員：新井 亜紀、角野 勝久、澤田 佳知、藤岡 理、大堀 彰子、(泉谷章仁 欠席)

学 校：校長 寺岡 正裕、教頭 浦 展諭、事務長 高木 みぎわ、首席 喜多村 晴幸

首席 鳥谷 直宏、吾妻 由隆、上武 茂昭、樹 博史、宮坂 公美、葉山 佳秀、土肥 正毅

○内容

第 1 部 授業見学

委員の授業見学後の主な意見

- ・授業の中で繁殖など性的な事をあまり意識せずに話ができている事が良かった。
- ・猫などの生活に密着した話題で良かった。
- ・ハイテク農芸科の野菜の収穫で、生産物を誇らしそうに見せてくれた。
- ・生徒の活動が非常に活発であった。
- ・生徒の表情がやわらかい。
- ・生徒が明るく生き生きしている。目的が明確で良い。
- ・本校でも熱心な事業をしていきたいと思う。先生たちが熱い授業をしていた。
- ・未来永劫続いていく農業高校としてサポートしていきたい。
- ・農場が住宅に近い事から苦情もあるのではないかな。
- ・日頃、発達障がいのある子ども達をみているが、命を再確認できる学校であると思う。
多様な生徒がいるかと思わるので支援体制などできること、サポートできることを一緒に考えていきたい。

第 2 部 協議会 15:30~17:00

1 学校長挨拶

農業の専門高校として歴史のある学校である。農芸 1 年生全員に田植え実習をおこなっている。
ぬるぬるとした土の感覚など農芸高校では五感を通じて体感できることは素晴らしいと思う。
校長としてしっかりと取り組んでいく。

2 学校協議会 委員長選出

【委員選出】

角野 勝久 委員が委員長として決定

3 協議 (司会：委員長)

(1) 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価について

・経営計画について説明【学校長】

座学と実習での生徒の取組みが違う。生徒会活動は活発ではない。文化祭と農芸祭を違うと捉え、今後検討していきたい。カウンセリング体制は保健部と連携しながら教員研修を進めるなど、

態勢を強化していきたい。施設設備は老朽化しており同窓会も協力して頂いている。授業について生徒の学びを深めるため ICT を活用するなど、生徒の興味関心を高めていく授業改善が必要である。本校の農業クラブは自信がある。先生方もしっかりと指導をしており、生徒もついてきている。来週の農業クラブの大会が楽しみである。遅刻の数は減らしているが、さらに 1 限目の遅刻を減らしながら生徒の従業を受ける体制を整えていきたい。進路実現につなげていく指導の強化を図りたい。入学生が農芸高校の特性を理解して入学するように PR を進めていきたい。

(2) 各分掌の取り組みについて

教務（吾妻）：授業アンケートの数値より、「わかる授業」など学力定着を図りたい。

中退・転学者を減らしていきたい。

生指（樹）：雨の日のバスでの遅刻もあるが、1500 以下に減らしたい。

放課後の遅刻指導など生徒指導部と教科や専門学科などと連携しながら指導したい。

進路（上武）：高大連携などの行事を行っているが、効果は薄い。行事などをクラッシュ&ビルドを進めていきたい。キャリアガイダンスを充実させたい。

保健（宮坂）：スクールカウンセリングなどを紹介はしているが、外部発信まではしていなかった。より多くの生徒や保護者に周知をしていきたい。教育相談に関する職員研修を実施する予定である。また、熱中症対策や AED 講習を実施する。

総務（葉山）：広報のため HP 更新や学校案内の更新、説明会・体験入学などを実施している。今年度は中学校教員向け説明会を実施する。PTA の方々に体育祭や農芸祭など協力をして頂いている。

(3) 教科書採択について

教務部より説明【吾妻】

本校で協議し、選定した教科書一覧を提示し、選定理由について説明を実施した。

（各教科の教科書を持参し教科書を閲覧）

(4) その他

SPH 事業について説明【烏谷】

文科省より指定を受け、大学・研究機関・企業等との連携の強化等により、社会の変化や産業の動向等に対応した、高度な知識・技能を身に付け、社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成を図るため 15 の事業を実施していく。

4 その他

今後の学校運営指導委員会の予定について

- ・第 2 回学校運営協議会 平成 30 年 11 月 28 日（水） 15:30～17:00
- ・第 3 回学校運営協議会 平成 31 年 2 月 8 日（金） 15:30～17:00